
トリカゴ

藍田いずる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トリカゴ

【Nコード】

N4144F

【作者名】

藍田いずる

【あらすじ】

主人公は富山の県立高校に通う女子高生。毎朝海辺を散歩していると、打ち上げられ鳥を発見する。彼女の周りは次第に動き始める。

第一話・クチバシ

日本海は汚いと言われるけど、私はこの藍色の海が好き。韓国語が書いてあるペットボトルとか、打ち上げられた身長ぐらいあるドラム缶も好き。海に向こう側には陸が続いている。そう分からせてくれる。風がしょっぱくて肌寒い。私はマフラーを肩に掛け直してゴミを踏まないように歩く。歩きながら小さな漂流物を拾っている。300メートルも歩けば浜辺は終わる。私の身長は四倍位ある大きな岩が目の前を横切って海へと伸びている。迂回して道路に向かえば、すぐに流木で作られた階段が現れて、そいつを使つての上へ登る。ツルツルで滑りそうな石の上を海へと向かって歩いて行くと、六畳ぐらい平らな場所に出る。目の前には水平線が広がっていて、湾曲した砂浜が右手にあり、左手には行つた事のない大きな湾岸工業地帯があつた。灯台や漁港の明かりがうつすら見える。覗く景色を海辺に変えて、息をしているのか判らない位、何も考えずに水平線を見渡し続ける。それがここ最近、毎朝の日課だつた。

しばらく眺めていると携帯電話のアラームがなつて私はただの高校生にもどる。時計を見ると七時半。もう学校に行かなきゃいけない時間だつた。携帯電話には今日も不在着信は残っていない。浜辺を通り、住宅地を進み、三つ目の角を曲がれば私の家だ。今日ぐらい少し遅れていてもいいかな。そう思つてると空気を引き裂くような鳴き声が聞こえた。なんだろう？カモメとも違う声だつた。私は疑問に思いまた海岸へ降りていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4144f/>

トリカゴ

2011年1月16日14時32分発行